

守山企業景況調査報告書

(第51回)

令和4年4月～令和4年6月期 実績

令和4年7月～令和4年9月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和4年4月～令和4年6月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 68 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	19	12	63.2%
製造業	13	10	76.9%
建設業	12	8	66.7%
サービス業	19	12	63.2%
卸売業	5	4	80.0%
合計	68	46	67.6%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和4年4月～令和4年6月、見通しを令和4年7月～令和4年9月とし、調査時点は令和4年7月31日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和4年4月～令和4年6月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和4年4月～6月期の調査結果では、業況、売上高、採算、資金繰りの4指標全ての数値が上昇した。

<業況>

業況DIは▲9.5で前回調査の▲19.6から10.1ポイント上昇した。業種別では、小売業▲58.3（前回調査比▲42.9）、製造業20.0（前回調査比+30.0）、建設業12.5（前回調査比37.5）、サービス業0.0（前回調査比+25.0）、卸売業0.0（前回調査比+33.3）と小売業以外の業種は上昇した。

7月～9月期見通しは全体で▲5.3である。

<売上高>

売上高DIは22.2で前回調査の▲14.6から36.8ポイント上昇した。業種別では、小売業▲8.3（前回調査比▲1.2）、製造業33.3（前回調査比33.3）、建設業25.0（前回調査比+75.0）、サービス業33.3（前回調査比56.4）、卸売業50.0（前回調査比16.7）であり、小売業だけが低下した。

7月～9月期見通しは全体で0.0である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲25.0で前回調査の▲30.6から5.6ポイント上昇した。業種別では、小売業▲50.0（前回調査比▲25.0）、製造業▲10.0（前回調査比+20.0）、建設業▲25.0（前回調査比+62.5）、サービス業▲20.0（前回調査比▲4.6）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）で製造業と建設業が上昇した。

7月～9月期見通しは全体で▲20.9である。

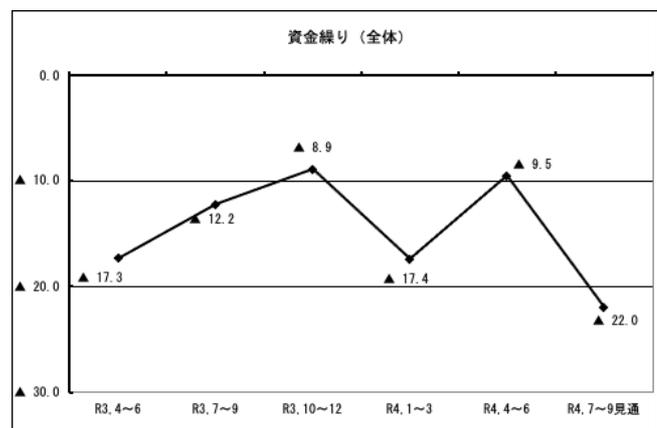
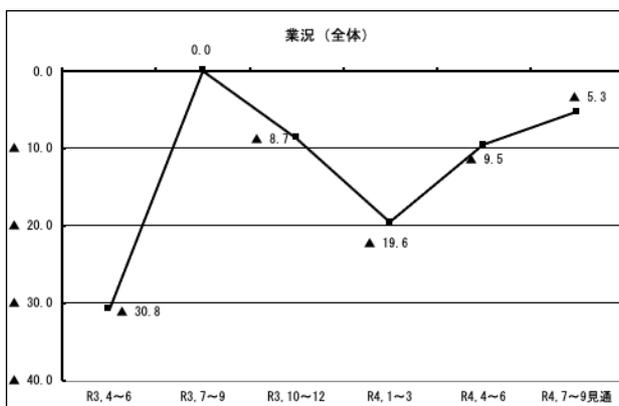
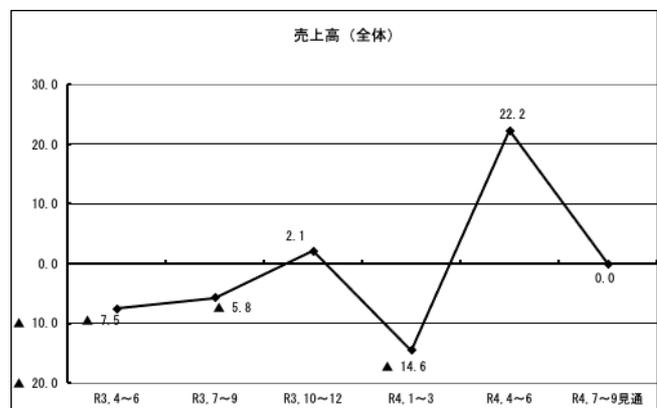
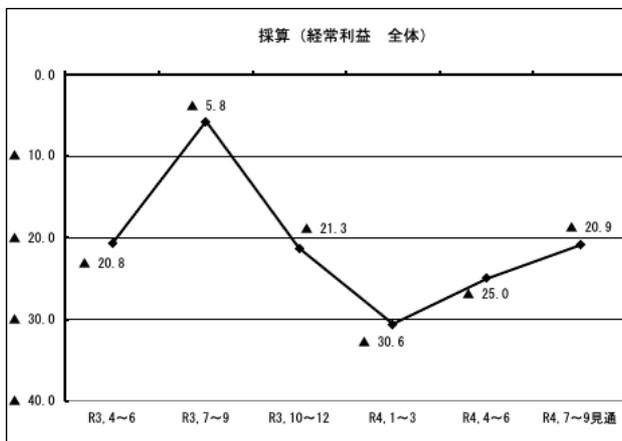
<資金繰り>

資金繰りDIは▲9.5で前回調査の▲17.4から7.9ポイント上昇した。業種別では小売業▲8.3（前回調査比+13.1）、製造業▲12.5（前回調査比▲23.6）、建設業0.0（前回調査比+28.6）、サービス業▲18.2（前回調査比+12.6）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）で小売業、建設業、サービス業が上昇した。

7月～9月期見通しは全体で▲22.0である。

<コロナウイルスの影響などの意見>

- ・6月ごろは明るい兆しが見えていましたが、感染拡大に伴いキャンセルが増えてきています。
- ・飲食店はコロナ禍で離れたアルバイトが別の仕事に就き人手不足傾向ですが、不安定なため戻ってきてもらうわけにもいかず今いる人材でやりくりしています。
- ・コロナで借りた資金の目減りと返済が重なってきて苦しい状況です。
- ・材料費の高騰が収支を圧迫している。
- ・原材料や燃料や梱包資材などほとんどが値上げでコストアップしているが需要が藻だ戻っていないので値上げしにくい。
- ・庶民は生活が苦しくますます節約生活に入ると思う。



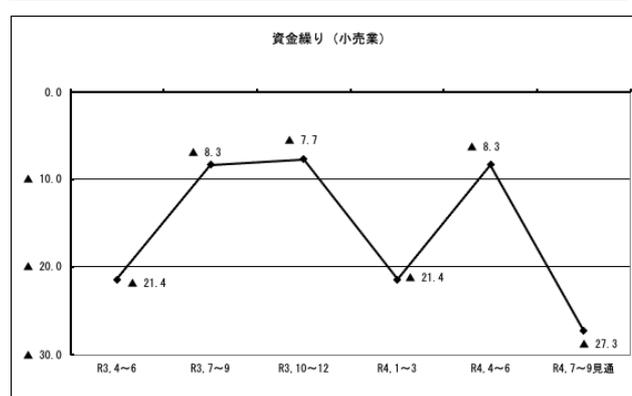
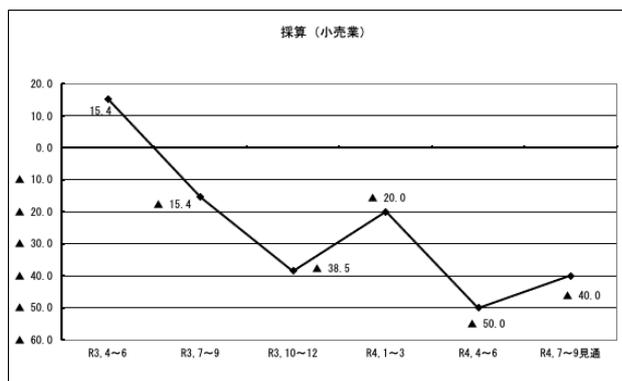
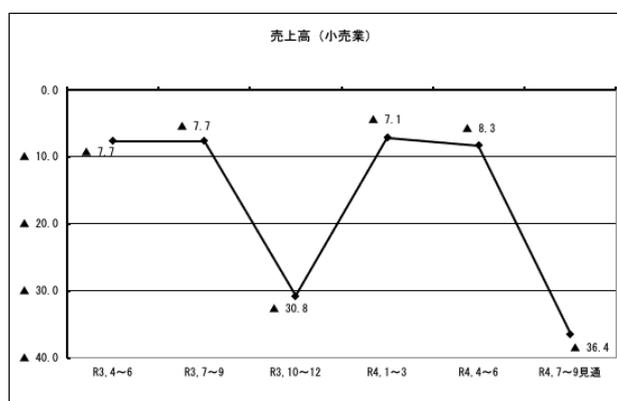
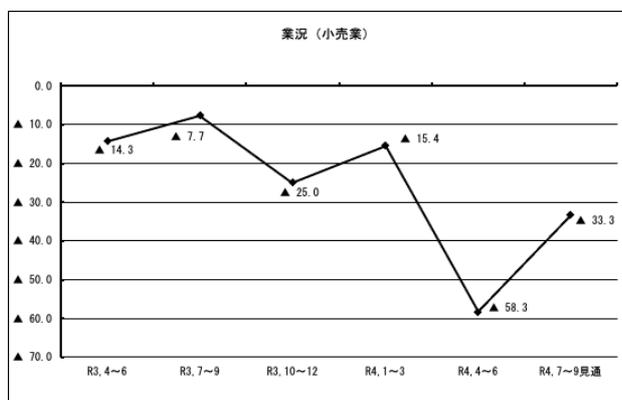
小売業

小売業の業況DIは▲58.3で前回調査に比べて42.9ポイント低下した。過去1年にはなかった大幅な落込みである。令和2年10月～12月期に▲57.1となつて以来の水準である。7月～9月期見通しは、▲33.3で今回実績よりは高い数値をとっている。

売上高DIは▲8.3で前回調査に比べて1.2ポイントの低下であった。ここ1年間を見ると、令和3年10月～12月期を除いて▲7程度で推移しており、その意味では安定している。7月～9月期見通しは▲36.4と大幅な低下が見込まれている。

採算DIは▲50.0で前回調査より30ポイント低下した。1年前の15.4から低下傾向が続いており、今回調査では▲50.0まで低下した。令和2年4月～6月期が▲64.3でこの水準に近づいている。ただ、7月～9月見通しは▲40.0と少し上昇予想している。

資金繰りDIは▲8.3で前回調査より13.1ポイント上昇した。昨年7月～9月期調査が▲8.3と同じであり、過去1年を見ると▲21.4と▲8前後を往復しており、今回もその動きの中にあると見られる。7月～9月期見通しも同じ程度の▲27.3で資金繰りは好転しない見込みである。



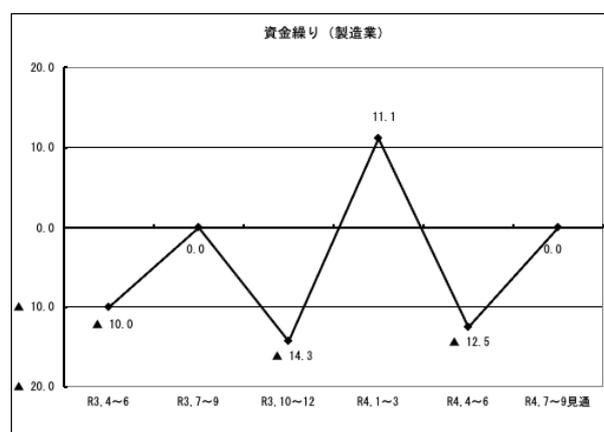
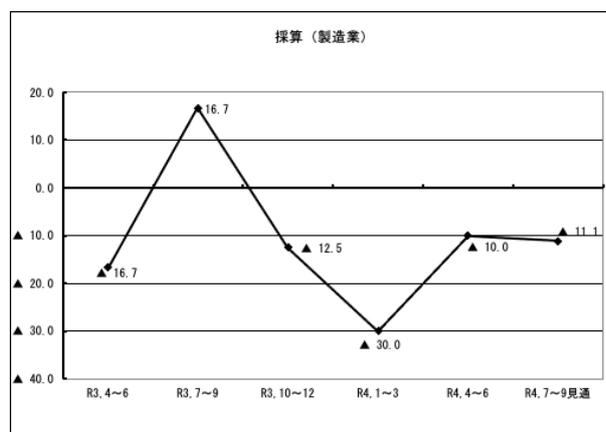
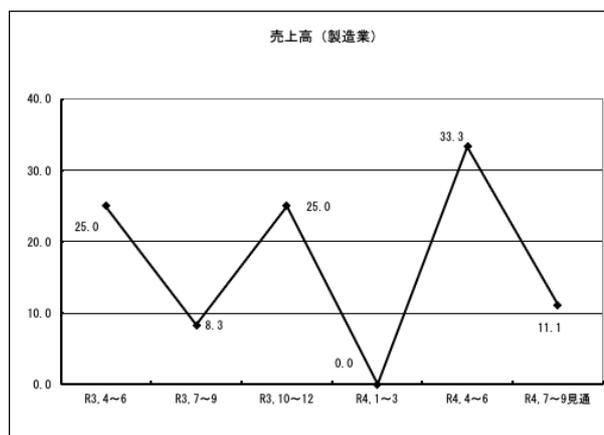
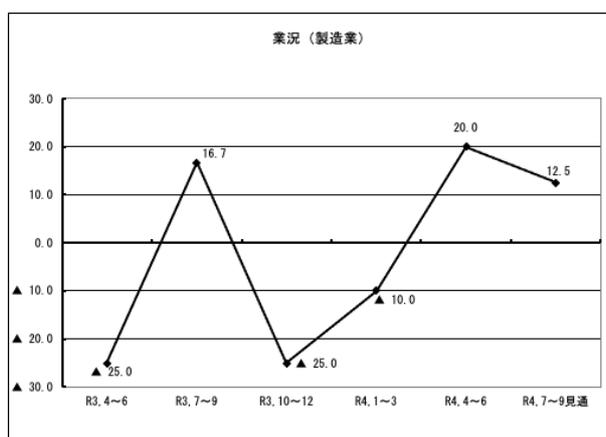
製造業

製造業の業況DIは20.0と前回調査に比べて30.0ポイント上昇した。2四半期連続の上昇で数値がプラスになった。令和3年7月～9月期以来のプラスである。7月～9月期見通しは12.5で今回実績よりは下るものの、プラスの数値であり、製造業の業況は良くなっていると思われる。

売上高DIは33.3で前回調査と較べて33.3ポイント上昇した。売上高DIは過去1年を見るとW字型に変動しており、今回は上昇の順であったがその通りとなった。7月～9月期見通しは11.1で低下の順の通りの予想であるが、プラスの数値を保っている。

採算DIは▲10.0で前回調査より20ポイント上昇した。前回調査まで2四半期連続の低下から反転した。業況と売上高がプラスの数値になっているが採算はマイナスのままであり、今後の改善が期待される場所である。7月～9月期見通しは▲11.1なので今回調査と同じような傾向が続くと予想されている。

資金繰りDIは▲12.5で前回調査に比べて23.6ポイント低下した。前回調査で上昇した分がそのまま低下したような形になった。過去1年を見ると同様の動きを続けており、今回は低下の順になったようである。7月～9月見通しは0.0と好転の順の通りの予想となっている。



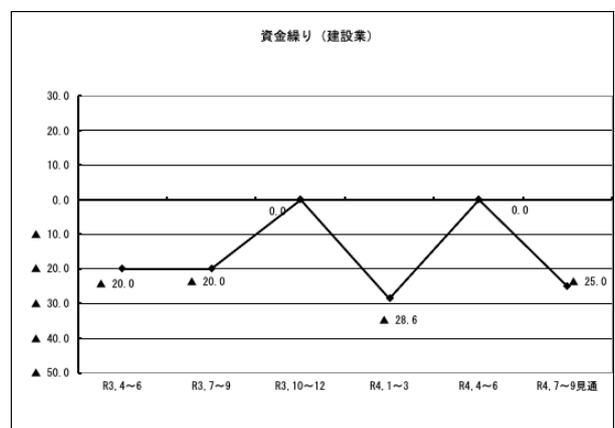
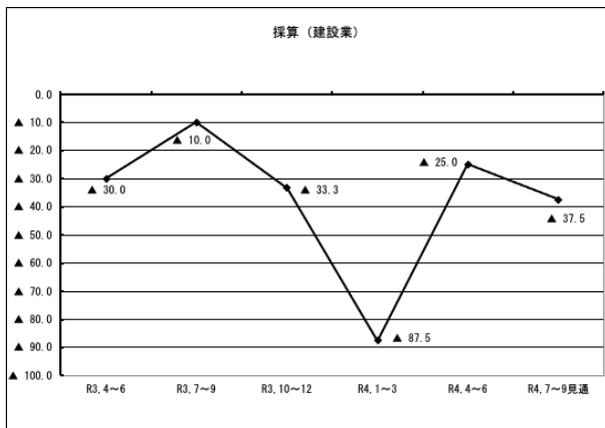
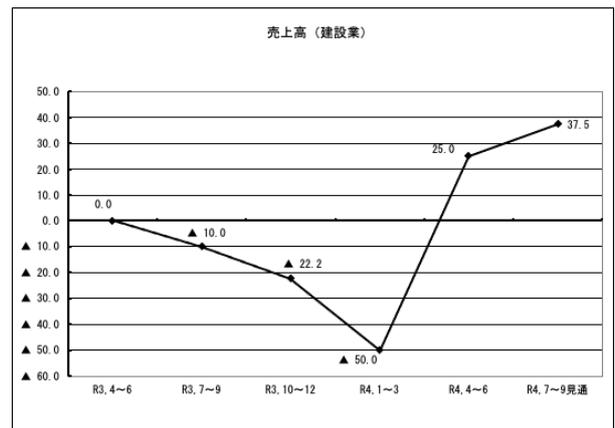
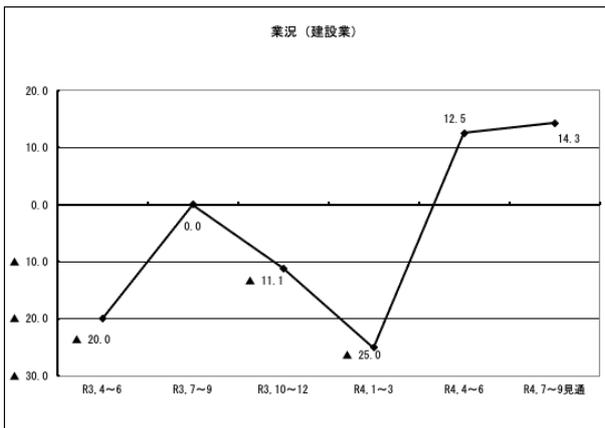
建設業

建設業の業況DIは▲12.5であり前回調査から37.5ポイント上昇した。令和3年1月～3月期の20.0以来のプラスの数値である。過去1年間で0.0を上回らなかったことを考えると、今回調査時点での業況の回復が著しいものであると考えられる。7月～9月期見通しも14.3とさらに上昇の見通しであり、この傾向はしばらく続きそうである。

売上高DIは25.0で前回調査より75.0ポイント上昇した。3四半期連続の低下であった前回調査から一気の回復である。令和2年1月～3月期の売上高DIが25.0であり、それ以来の数値である。7月～9月期見通しはさらに上昇し37.5である。

採算DIは▲25.0で前回調査より62.5ポイント上昇した。業況、売上高が大きく回復した中で採算も回復率は大きくなった。しかし、まだまだマイナスの数値であり、今後のさらなる改善が求められる。7月～9月期は▲37.5と今回実績より低下する予想となっている。

資金繰りDIは0.0で前回調査より28.6ポイント上昇した。前回調査で低下した分を今回調査で上昇したような動きである。元々資金繰りDIは0.0を中心に大きな動きを見せない傾向にあるが、過去1年では▲20台を3回出しており、その点で見れば資金繰りが改善しているように思える。しかし、7月～9月期見通しは▲25.0なので、安定はしていないようである。



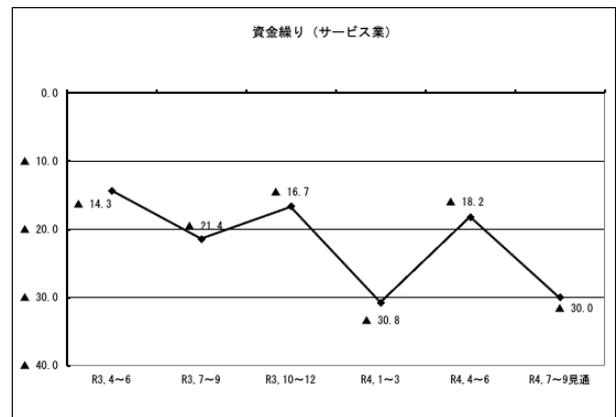
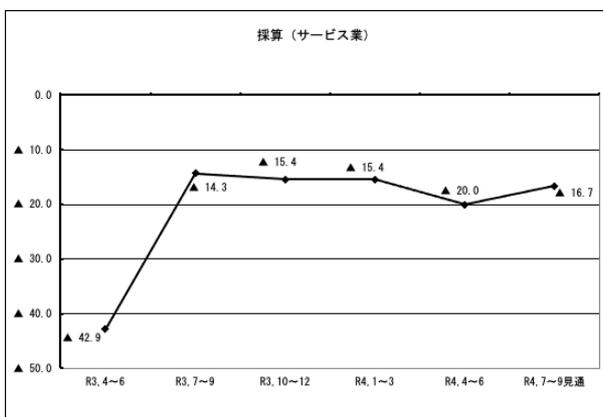
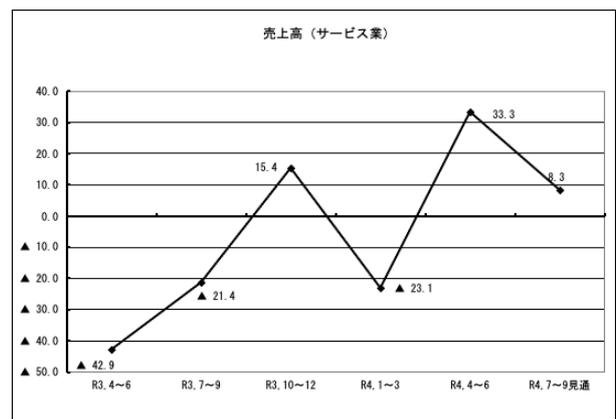
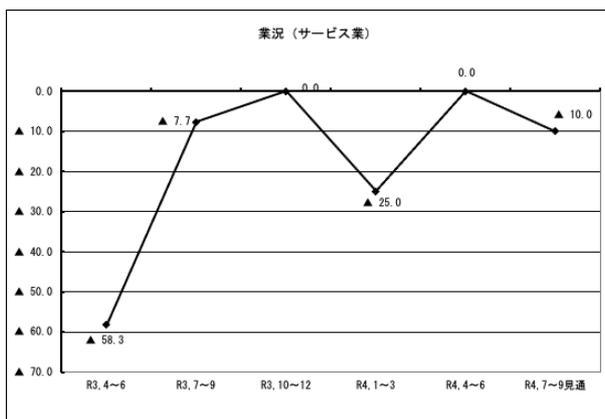
サービス業

サービス業の業況DIは0.0で前回調査に比べて25ポイント上昇した。前回調査では数値を落したものの今回調査では落した分を戻しており、令和3年4月～6月期を底に回復の傾向が見て取れる。7月～9月期見通しは▲10.0で低下の予想となっているので少し注意が必要である。

売上高DIは33.3で前回調査より56.4ポイント上昇した。令和3年4月～6月期が▲42.9でその前1年間は▲60～▲80台を続けてきたことを考えると回復が進んでいると見ることができる。7月～9月期は8.3と今回実績より低下した数値の予想であるが、プラスの数値になっており、回復基調は変わらないようである。

採算DIは▲20.0で前回調査に比べて4.6ポイント低下した。令和3年4月～6月期が▲42.9でその前1年間は▲50～60台であることを考えると採算も回復してきていると言えるが、まだマイナスの数値であり、回復し切っていない感がある。7月～9月期見通しは▲16.7で今回実績よりは上昇している。

資金繰りDIは▲18.2で前回調査より12.6ポイント上昇した。過去1年で見れば概ね平均的な数値であり、その前の1年が▲20～40台であることを考えると資金繰りも弱いながら回復しているようである。7月～9月期見通しは▲30.0で見通しは明るくない。



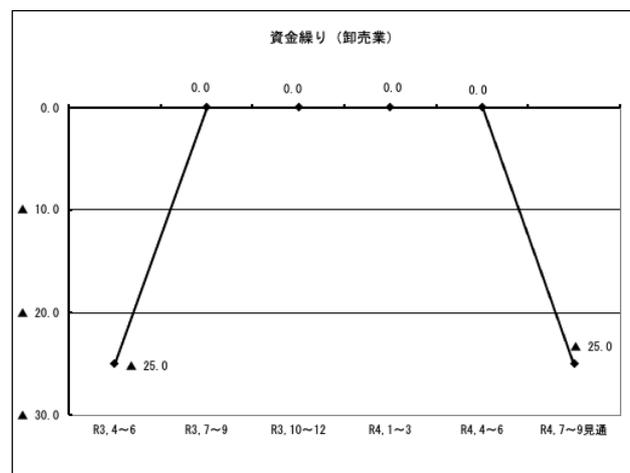
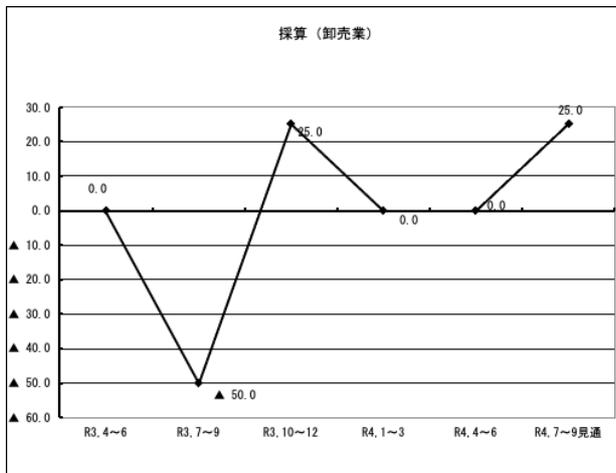
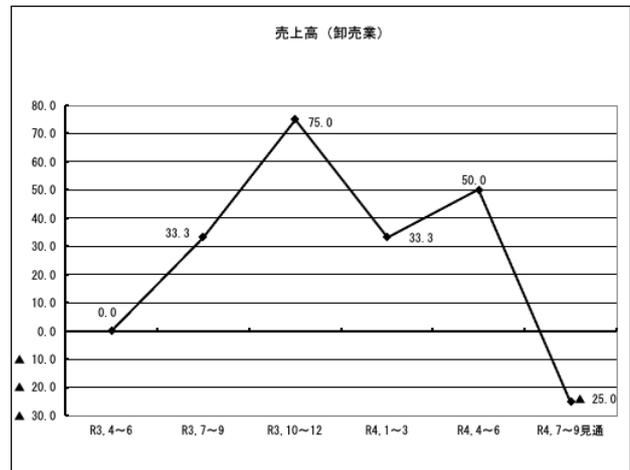
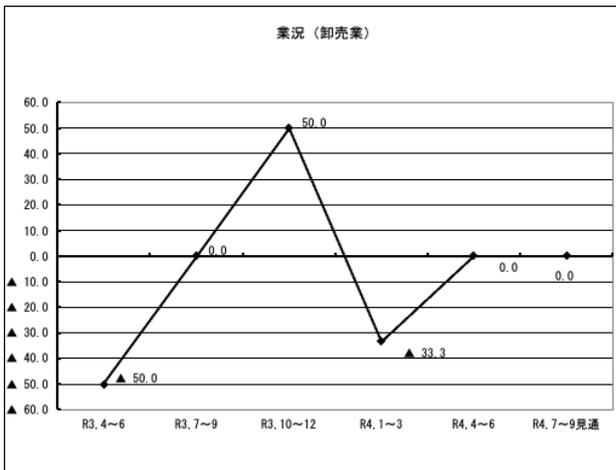
卸売業

卸売業の業況 DI は 0.0 で前回調査より 33.3 ポイント上昇した。前々回調査で 50.0 と高い数値であったので 0.0 は低めの数値であるかの印象だが、令和 2 年中を見ると▲25.0 から▲50.0 という数値が並んでおりその時点から見ると回復である。7 月～9 月期見通しは 0.0 であり今回調査と同じである。

売上高 DI は 50.0 で前回調査より 16.7 ポイント上昇した。令和 2 年中は▲50.0 と▲25.0 を往来していたことを考えると売上高でもここ 1 年は回復していると見られる。しかし、7 月～9 月期見通しは▲25.0 なので悲観的な予想である。

採算 DI は 0.0 で前回調査と同じであった。過去 1 年を見ると令和 3 年 7 月～9 月期が▲50.0 となった他は、0.0 以上の数値であり、その前 1 年間の▲50.0 と▲25.0 の往来から見れば採算も回復していると考えられる。7 月～9 月期見通しは 25.0 で採算は好転しているとも考えられる。

DI 資金繰り DI は 0.0 で前回調査と同じであった。令和 3 年 4 月～6 月期調査で▲25.0 とした以外は 0.0 の資金繰りの数値で、非常に安定していると考えられる。7 月～9 月見通しは▲25.0 であり、少し注意が必要である。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全体	▲ 9.5	▲ 5.3	22.2	0.0	▲ 25.0	▲ 20.9
小売業	▲ 58.3	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 36.4	▲ 50.0	▲ 40.0
製造業	20.0	12.5	33.3	11.1	▲ 10.0	▲ 11.1
建設業	12.5	14.3	25.0	37.5	▲ 25.0	▲ 37.5
サービス業	0.0	▲ 10.0	33.3	8.3	▲ 20.0	▲ 16.7
卸売業	0.0	0.0	50.0	▲ 25.0	0.0	25.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全体	15.2	4.7	▲ 24.4	▲ 30.2	▲ 11.6	5.0
小売業	0.0	0.0	▲ 36.4	▲ 27.3	▲ 20.0	0.0
製造業	30.0	10.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 10.0	22.2
建設業	12.5	0.0	▲ 12.5	▲ 25.0	0.0	14.3
サービス業	0.0	9.1	▲ 33.3	▲ 27.3	▲ 16.7	0.0
卸売業	75.0	0.0	0.0	▲ 33.3	0.0	▲ 25.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全体	▲ 9.5	▲ 22.0	3.1	3.1	3.2	3.2
小売業	▲ 8.3	▲ 27.3	0.0	0.0	0.0	0.0
製造業	▲ 12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	0.0	▲ 25.0	14.3	14.3	14.3	14.3
サービス業	▲ 18.2	▲ 30.0	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	0.0	▲ 25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

